

会 議 録

会 議 名	平成25年度第1回小金井市民交流センター運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課		
開 催 日 時	平成25年11月21日(木) 午後6時30分～8時30分		
開 催 場 所	601会議室		
出 席 委 員	増田章夫副委員長 福沢政雄委員 中重久子委員 大久保勝征委員 鈴木輝一委員 桑谷哲男委員 川合修委員		
欠 席 委 員	小林真理委員長 久宗百合子委員		
事 務 局 員	1 小金井市 コミュニティ文化課長 平岡良一 コミュニティ文化課文化推進係 岡崎章尚 2 市民交流センター指定管理者 (1) 野村ビルマネジメント株式会社 施設管理マネージャー 柳町匡俊 設備管理責任者 櫻井元理 舞台管理責任者 安倍朋美(東京舞台照明) (2) サントリーパブリシティサービス株式会社 館長 天羽麻里子 支配人 神原文江		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	(1) 前回議事録の確認 (2) 平成24年度事業報告について (3) 平成26年度事業計画について (4) その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 平成24年度第2回議事録 (2) 平成24年度小金井市民交流センター事業報告書 (3) 平成26年度小金井市民交流センター事業計画書・収支予算書		

会議に先立ち、事務局から任期延長等の説明を行った。

1 前回議事録の確認

特段の質疑なし

2 平成24年度事業報告について

特段の質疑なし

3 平成26年度事業計画について

指定管理者から平成26年度事業計画について説明の後、質疑を行った。

- ・ 委員から「ガラ・コンサートやゴスペル合唱等気軽に質の高いものが手に入るのには素晴らしいと思う。また、職員（受付・舞台スタッフ等を含む。）の対応が素晴らしい。小金井市の財産としてさらに足を向けたくなるような事業を展開してほしい。」という意見があった。
- ・ 委員から「スペースNが学習室のようになっていて勿体ない。市制施行55周年事業のワークショップを行っているのを見て素晴らしいと感じた。もっと活用されるようPRをすべきである。」という意見があった。
- ・ 委員から「施設に手すりが少ない。施設の予算やデザインの関係があるかもしれないが、今後長期的な面で考えていく必要があるかもしれない。」という意見があった。
- ・ 委員から「市民が貸館として行う事業等がホームページ上から分かりづらい。リンク等を貼って飛ばすようにできないか。」という意見があった。
→ 指定管理者から「技術的には可能であるが、公共施設である以上何でも貼ってよいということにはならない。基準をつくるのはなかなか難しい。」旨説明
- ・ 委員から「市民交流センターは、経済効果の面でかなり貢献していると考える。一部の市議会議員が駅前等で批判的に2億円の赤字というようなことを言っているが、市民に対し経済効果の側面をもっとPRすべきである。」という意見があった。
- ・ 委員から「アウトリーチに近い形でいろんな館外活動と連携するなど、交流センターを中心、拠点とした形で、単に施設を管理するのではなく、市民交流としての文化活動の管理運営、それをきちんと打ち出すような形が欲しい。」という意見があった。
→ これに対し別の委員から「施設のみ借りて、自らの発表会だけで、外に問いかけることはしない団体が多い。施設を借りる市民が、自らの家族、友人、知人に自ら声を掛けて、見に来てもらうことで各文化団体が自主的に成長していくとともにコミュニティ、会話が始まる。これは行政が幾ら旗振ってもできる

ことでなくて、各団体がどのように自主的に、企画し、演出し、人を寄せるかが課題である。」という意見があった。

- 委員から「地方都市ではないので、住民の方はどこに行ってもいろんなものが見られるし、いろんなものに参加できる。文化団体も小金井市民だけで構成されているわけでもない。会館というものは文化の揺りかごの様な要素が使命としてある。それを体現化するような方針というのを、市と協議の上、次の段階として始めていただきたい。」という意見があった。
- 委員から「老若男女が参加・観覧できる「〇月といえば〇〇」というような文化事業を今後実施できるようになるとよい。」という意見があった。
- 委員から「目玉となる事業は何か。」という質問
 - 指定管理者から「完全にオリジナルで、小金井だけで見聞き可能な「ガラ・コンサート」及び「The Super Premium」というシリーズ名をつけた外来の公演が大きな柱として考えている。」旨説明
- 委員から「自主事業の予算の組み方はどのように考えているのか。」という質問
 - 指定管理者から「入場者数は、どの事業も7割から8割程度で予算を組んでおり、年間で収支比率50%を目標としている。ただし、子ども向け事業等の振興事業的なものは入場料収入が入らない。そこに現在力を入れているので収支比率を下げるというジレンマの中にある。一方、貸館利用料収入をかなり頑張らせて上げているので、ある程度事業費の中に補填する形で投入している。」旨説明
- 委員から「施設の中に、まち歩きのパンフレット等を配架し、市外から来た方たちもそれを手にして町なかを歩き、食事をし、お茶を飲み、買い物をするというようなことができる仕掛けづくりをしてはどうか。」という意見があった。
- 委員から「観客集客の努力として、ホームページを見てくださいますというだけではなく、携帯からメールマガジンを出すようなことをすべきだし、考えていかなければいけない。」という意見があった。
- 委員から「中央線上に約600席のホールを持つ三鷹市芸術文化センターがあり、そういった施設と連携していくことが望ましいと考えるが考えはあるか。」という質問
 - 指定管理者から「来年度、三鷹で公演する外来団体の著名アーティストを、ソロで小金井に招き、小金井だけの公演を開催する予定がある。券売でも協力関係を作ることができないか検討するつもりである。」旨説明
- 委員から「共催事業や提携事業といった事業予算を掛けずに施設を貸すことで、民間からのよい公演を呼ぶこともできると考える。今後提携というものができればよいと考える。」という意見があった。
- 委員から「自主事業は、施設のメインの事業になる。市民の皆さんが誇りにな

り、いいよねと言っていたいただけるような仕組みをつくっていかねばいけない。交流センターが地域の活性化の拠点施設になることが最終的な目標だと思う。それに向かって、将来の観客づくりというところでは、ますますこれから子供の事業をメインにしていかないといけない。10年後の観客を育てるという意味では、敷居が高くなく、身近な文化施設だということを子供たちにわかってもらう必要がある。」という意見があった。

→ 別の委員から「市税収入が落ち込む中で交流センターの運営等についても、いろんな面から、このお金は無駄だとか多いとか、いろんな意見が入ってくると思う。しかし、これは単なる芸術を鑑賞するだけでなく、人々の思い出ができる場所であったり、夢を膨らませる場所でもある。まちぐるみで本気になって、この交流センターを、市民あるいは子供たちの宝物にしていくような感じで総合的に進めなければならない。」という意見があった。

→ 別の委員から「いただいた意見の中にもすぐとりかかれる部分と、将来の目標としてやっていく部分とあるが、行政も含めて一体になってやっていく、これが基本中の基本だと思う。そういう意味で、市も文化活動に力を入れる必要がある。」という意見があった。

- 委員から「年間17万人の来館者がいると報告書にある。その方たちが1人2,000円使えば、3億4,000万になる。投資したお金は回収できるということになる。目に見える数字で回収しているし、目に見えない数字を入れると超えている。だからもっと自信を持って市民に認知してもらうように、理解をしてもらうように、積極的に打って出るべきだ。」という意見があった。
- 委員から「市民からは満足した声しか聞えてこない。その反面、市議会議員からはコストが掛かり過ぎる等の指摘があるが、コストを考えたときに、どれだけお金を使って、どれだけ市民のほうに還元できて、満足度がどれだけ高いかということまで含めて、考えていかねばならない。」という意見があった。
- 委員から「施設西側の広場のところはいろんなパフォーマンスができる場があるので、その辺の問題をなるべく早く解決してもらいたい。」という意見があった。
- 委員から「2億3,100万円という数字だけみると市議会議員のように無駄ではないかと言う人もいるかと思うが、小金井市の一般会計に対して交流センター全体の予算が約3億円、それに他の文化施策の費用を加えても全体の0.0何%である。これはかなり少ない額だと思う。市民の皆さんにこの辺りを議論してもらう必要があるのではないか。」という意見があった。

→ 別の委員から「芸術文化は形にならないから批判されやすい側面がある。」という意見があった。

→ 別の委員から「公会堂閉館後今までは施設自体がなかったのだから、他市の施設を借りていた。費用的には安く済むかもしれないが、それでは市内に文化

は根付かない。公会堂に代わるものをつくるというのであれば、もっと安い集会施設をつくれれば良かった。問題は位置付けであり、交流センターは芸術文化の拠点となるのであり、公会堂や集会所と異なる。市や運営協議会委員、市議会議員を含めて交流センターが何のためにあるのか考える必要がある。また、指定管理者の事業計画書だけでなく、市としての方針を出す必要があるのではないか。」という意見があった。

- 事務局から「小金井市芸術文化振興条例及び小金井市芸術文化振興計画がある。」旨説明
- 委員から「今日出た意見を含めて考え直す、いい機会にさせていただきたい。」という意見があった。
- 委員から「平成26年度予算が平成24年度決算と比較して増額となっている理由は何か。」という質問
 - 指定管理者から「平成25年度の実績ベースで平成26年度予算をつくった。そのため、平成24年度と平成26年度を比べると、予算規模がかなり大きくなっている。その分を市民に還元するという意味も含めて、例えば備品の購入や補充、事業数の増という形で、全体が大きくなっている。」旨説明
- 委員から「平成26年度の予算書内にあるモニタリング調査費とは何か。」という質問
 - 指定管理者から「これまで自主事業の際にアンケートをとってきた。それに加え、平成25年度は貸館利用者アンケートを行った。平成26年度は利用者懇談会のグループインタビュー的なものを実施したい。」旨説明
- 委員から「広告宣伝費が増えているが、これは何か。」という質問
 - 指定管理者から「全戸配布に近い形で配付するため、大きな費用が掛かっている。」旨説明
- 委員から「若い人の参加を進めるような取組を行うべきである。」という意見があった。
- 委員から「子供向けイベントの際には、学校のPTA等に小学校で配ってもらいと効果が出る。」という意見があった。
 - 指定管理者から「教育委員会の中で、民間のいわゆる営利のものは基本的には配布できないと言われており、課題として認識している。一方、私立の幼稚園には受け入れてもらっている。」旨説明
 - 別の委員から「教育委員会と連携して、一定の学年を無料で招待するというようなことはできないか。」という質問
 - 指定管理者から「鑑賞教室等は人数の関係等で他の施設で行われている。」旨説明
 - 委員から「例えば、他の施設では1か月間、劇場を使って、小学4年生を招

待して芝居を見てもらっているという事例もある。1日約200人ずつで計3,000人ぐらいの小学生が訪れる。劇場法では人材育成とか教育の寄与等の文言が入っており、学校でダンスを授業として組み込むこともやられているので、将来の人材づくりのためにはやっぱりそのぐらい思い切った方策があるとうい。」という意見があった。

→ 事務局から「交流センター条例は優れた音楽、演劇等の文化及び芸術を享受することができる機会並びに自ら文化活動及び芸術活動を実践することができる場を市民に提供するとともに市民の多彩な交流活動の推進を図ることが、設置目的になっている。事業自体も、子供たちの部分に特化したような形で大きく書いている訳ではないが、芸術文化振興計画という計画もある。その中には、教育普及活動について重きを置いているということもあるので、市の芸術文化全体の施策の中には当然入ってくるし、今後は次世代育成という視点もある。子供のうちから経験をし、大きくなったときに少しでも敷居が高くないという子供に育っていたり、自分がステージに立つような子供たちがもっと出てきてくれるということを考えてつくられている計画である。交流センターもその計画の中に包含されていると考えている。」旨説明

- ・ 委員から「様々な意見が出てきたが市の職員だけで実現することは難しい。市議会の中にも応援団を増やす必要がある。」という意見があった。
- ・ 委員から「運営協議会の開催時期を、第1回を7月頃に開催し当該年度の事業の説明と前年度決算について話し合い、第2回を1月か2月頃に開催し次年度の事業計画案と当該年度の間接報告について話し合う形に変更してはどうか。」という意見があった。

→ 事務局から「本協議会設置要綱に基づく所掌は、指定管理者の事業運営の内容成果、経営等について協議を行い、その結果を市長に報告するという形になっている。市としては、具体的には決算の状況について、適正、適切かどうかということ、それから、いただいた事業計画を市の予算につなげていくに当たって、反映すべき意見がないかどうか、それぞれのタイミングで本来開催すべきものであると考えていたところである。委員からの指摘は市も認識しており、指摘どおりの日程になるかどうかは別として、時期について今後検討する。」旨説明

これらの意見を踏まえ、委員長代理から「本日出た貴重な意見を市と指定管理者でよく協議して、よりよい運営を目指していただきたい。」と意見があった。

4 その他

事務局から指定管理委託料の考え方について説明

平成26年度をもって現指定管理者の指定期間が満了することに伴い、平成26年度中に指定管理者の募集を行う必要がある。現在の指定管理者を選定する際は、税抜金額2億2,200万円という金額を指定した上で応募者に事業提案していただいたが、平成26年度に募集する際には金額も含めて応募者に提案してもらう方式も検討したい。

次回運営協議会の際に資料を示すので、委員にも検討願いたい。